

一日本語児の動詞形の発達について

岩 立 志 津 夫

1. 目 的

我国の発達心理言語学的研究は、近年、各種の方法を使って、活発に行なわれるようになって来たと同時に、その研究領域も多様化して来ている。多様化の様子は秦野の最近の論文（秦野1980）に明らかで、秦野は最近の言語獲得研究を次の8つに分類して紹介している。①音韻知覚の発達、②語彙の量的増大とその内容、③語意味の発達、④統語的発達、⑤初期伝達行動、⑥言語獲得の臨界期、⑦二言語併用、⑧文字言語の習得。この8分類を見ると、いかに研究が多様化しているかが分る。とはいっても、現在進行中の我国の諸研究で、言語獲得研究の重要な領域全てがふくまれているわけではない。研究が必要でありながら、各種の理由から十分手をつけられていない領域がある。その一つが活用に関するものである。活用研究は、研究成果に関し欧米語との比較が困難である。従って、研究者の動機づけが小さいことは了解できる。が、逆に考えて、比較が一見困難だからこそ、研究してみる価値があるとも言える。

従来からの「動詞形」に関する研究は、大久保や小西の研究（大久保1967、小西1960）に見られる通り、現象記述的である。更に、その現象記述は、従来の国文法を主たる道具としている。この種の研究は、その努力に関し当然敬意を払うべきではあるが、反面、その努力の成果は、法則追求という視点から見る限り驚く程わずかのように思える。たとえば、大久保の動詞形に関する研

—日本語児の動詞形の発達について（岩立）

究の中で注目すべき成果は、法則追求という視点からみるかぎり2つである。第1は、「ちゃんと活用表の通りになっている」ことの確かめ、第2は、「連用形が早く使われはじめ、益々多様される」ことの確かめである。

このような状況の中で、新しい形の「動詞形」研究は、どのように進んでいくべきなのだろうか？。結局、色々の試みをしてみるほかないだろう。本論文はその試みの1つである。

2. 資 料

2.1 被験児

被験児は横浜地区在住の男児（以下ジローと呼ぶ）で、3人きょうだいの真中（上に兄、下に妹）である。知能指数（IQ）は田中ビネーを使って2度測定され、2歳2月時点で92、2歳9月時点で112であった。

2.2 録音時期と録音時間

発話資料はテープレコーダーを使って集められた。録音時期と録音時間は表1の通りである。暦年齢は録音時期設定の都合（兄の発話も最初の頃同時に録音したので、ジローの誕生日を基準に時期を決められなかった）で、出産日を誕生月の最後の日と仮定して計算してある。従って、ジローが12月4日生まれなので、実際と比較して27日程度のズレ（表1の数字は実際より若い）が各暦年齢には存在する。

表 1 録 音 時 期 と 録 音 時 間

| 暦年齢(年；月) | 2；1 | 2；2 | 2；3 | 2；4 | 2；5 | 2；6 | 2；7 | 2；8 |
|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 時 間 数 | 8以上 | 6以上 | 7以上 | 6 | 6 | 6 | 6 | 6 |

2.3 録音場面

予備調査の結果、杓子定規な場面の統制は発話の収集にとって余り益がないことが分かったので、録音に際し、細かな規定は設けなかったが、録音される語が、各月毎に違ってしまうことを避けるために、大まかな形での場面設定はし

た。すなわち、1日の録音の中にできるだけ4つの場面（①家の中の遊び場面、②戸外の遊園地での遊び場面、③一定のコースをたどる散歩場面、④食事かオヤツの場面）が含まれるようにした。しかし、子供側の健康上の理由等で、ある場面（②、③が多い）が欠ける場合も若干生じた。

2.4 接触者

録音場面でシローが接する人物は、研究者の岩立の他では、両親・兄・妹がほとんどだった。相手は主に岩立が、発話状況などの必要な筆記をしながら行った。今迄の多くの研究のように母親を主な相手としなかった理由は、録音の目的が母子関係ではなく、子供の発話能力自体の解明にあったからである。

2.5 留意点

子供に接するに際し次の3点が留意された。①子供にはできるだけ伸び伸び行動させ、自然な形で発話が生じるようにする。②子供の発言に応じる場合、応答文を子供の発話文型にできるだけ近づけたり、単純化することによって、新しい単語や文型を教えないようにする。③①の点と矛盾する所もあるが、できるだけ多種多様な発話が出るように場面や遊び道具等に変化をつける。

3. 結 果

結果の詳細に入る前に2つの前置きをしたい。第1が、分析する動詞を限定したことについて、第2が、各動詞形の記述・分析に代表形と呼ばれるものが使われたことについてである。

①動詞の限定：従来の多くの研究では動詞の活用について調べる場合、得られた資料の中にある全ての動詞を問題にした。しかし、今回はそのような方法を取らずに、分析する動詞の数を限定した。その理由は、言語発達の初期相では変化が個々の動詞中心に個性的に生じるので、真の発達を把握するには分析する動詞の数を限定してきめ細かに分析する必要がある、と考えたからである。分析の対象となった動詞は、「たべる」「かく」「つくる」「かう」「こぼす」

の5動詞で、一定の基準（今回の資料の最後の2月、従って2歳7月と2歳8月に、「ガ格」と「ヲ格」が同時に一文中に現われる発話で使われている動詞を抽出する）で選ばれた。

②代表形の採用：2歳前半頃の子供の発音は、その前の時期に比べて構音がかなり熟達しているのに、かなり聴取し易いが、それでも子供の発話にはかなりの不明音がある。従って、言語学者が新しい言語の記述をする際に行うような、厳密な、音素をしっかりと把握した上での、音韻規則等の記述は、困難であると同時に、問題を無理に複雑にする。そこで、当人が言おうとしている語形を代表形として仮定し、それをもとに動詞形の変化を調べることにした。代表形は、主に、ジローが手本にしていると考えられる母親の発話形を参考にして決定された。3つの動詞（「かう」と「こぼす」は発話数が少ないので除いてある）の代表形と実際の発話形は資料1～3の通りである。資料1の通り、代表形「タベル」は、／タベル／／タベルー／／タベウ／／タベユ／／タルー／の5つの発話形を代表している。

3.1 各月の動詞形

5つの動詞の各月の動詞形は、表2～5の通りである。「かく」と「つくる」では連用形の「カイト」(計50回)と「ツクッテ」(計51回)が一番多く使用される動詞形であるのに、「たべる」では終止形の「タベル」(計26回)が一番多く使用される動詞形である。これらの最頻動詞形は、さらに、「カイト」の2歳7月を除いて、毎月少なくとも一度は生じている。使用頻度のより少ない動詞形に目を移すと、いくつかのグループにそれらは分けられる。第1が「たべる」での「タベテナイ」や「かく」での「カケナイ」で、これらの動詞形はわずか1月だけに生じている、第2が「たべる」での「タベタイ」や「かく」での「カイトルノ」で、これらの動詞形はある特定の少数の複数月にみとめられるがその後生じない、第3が「たべる」での「タベテ」や「かく」での「カイタノ」で、これらの動詞形は最頻動詞形のように多くは生じないがかなり長

表 2 「たべる」での各月の動詞形

| 動詞形 | 年齢 | | | | | | | | | 計 |
|-------------|----|----------|----------|----------|----------|----------|-----|----------|----------|-----|
| | | 2;1 | 2;2 | 2;3 | 2;4 | 2;5 | 2;6 | 2;7 | 2;8 | |
| 1 タベル | | <u>2</u> | 1 | 2 | 9 | 2 | 1 | 5 | 4 | 26 |
| 2 タベルノ | | | | <u>1</u> | 1 | | | | | 2 |
| 3 タベルノヨ | | | | | | <u>1</u> | | | | 1 |
| 4 タベタイ | | | | <u>1</u> | 2 | 1 | | | | 4 |
| 5 タベタイノ | | | | | <u>1</u> | | | | | 1 |
| 6 タベタイナ | | | | | | <u>6</u> | | | | 6 |
| 7 タベタイヨ | | | | | | | | <u>1</u> | | 1 |
| 8 タベタ | | | | <u>1</u> | | | | | | 1 |
| 9 タベタノ | | | | | | | | | <u>3</u> | 3 |
| 10 タベヨ | | | | <u>1</u> | 1 | 1 | | | 1 | 4 |
| 11 タベヨネ | | | | | <u>1</u> | | | | | 1 |
| 12 タベヨーヨ | | | | | | <u>2</u> | | | | 2 |
| 13 タベヨット | | | | | | | | <u>1</u> | | 1 |
| 14 タベチャッタ | | <u>3</u> | | | 2 | 3 | 1 | 3 | 3 | 15 |
| 15 タベチャッタノ | | | | | | <u>1</u> | | | | 1 |
| 16 タベチャダメヨ | | | | | | | | | <u>1</u> | 1 |
| 17 タベナイ | | <u>1</u> | | 3 | 2 | | 1 | | | 7 |
| 18 タベナイノ | | | | | <u>1</u> | | | | | 1 |
| 19 タベナイデヨ | | | | | | | | | <u>2</u> | 2 |
| 20 タベテ | | | <u>2</u> | 1 | 3 | | 2 | 1 | | 9 |
| 21 タベテイイ | | | <u>1</u> | 5 | | | | | | 6 |
| 22 タベテル | | | | | | | | <u>1</u> | | 1 |
| 23 タベテルノ | | | | | | <u>1</u> | 1 | 1 | | 3 |
| 24 タベテルヨ | | | | <u>1</u> | | | | | | 1 |
| 25 タベテルノヨ | | | | <u>1</u> | | | | | | 1 |
| 26 タベテモイイ | | | | | | | | | <u>2</u> | 2 |
| 27 タベテナイ | | | | | | <u>1</u> | | | | 1 |
| 28 タブテナイッテヨ | | | | | | <u>1</u> | | | | 1 |
| 計 | | 6 | 4 | 17 | 23 | 20 | 6 | 13 | 16 | 105 |

注：・数字は頻度

・アンダーラインは初発月

期間にわたって生じている。又、「たべる」では、全体で28種類の動詞形が認められたのに、「かく」では16種類、「つくる」では、「たべる」での半数以

表 3 「かく」での各月の動詞形

| 動詞形 | 年齢 | | | | | | | 計 |
|--------------|----------|----------|----------|-----|-----|-----|----------|-----|
| | 2;2 | 2;3 | 2;4 | 2;5 | 2;6 | 2;7 | 2;8 | |
| 1 カイタ | <u>2</u> | 8 | | 2 | | | | 12 |
| 2 カイタノ | <u>2</u> | 5 | | 5 | | | 1 | 13 |
| 3 カイタヨ | | <u>4</u> | | | | | | 4 |
| 4 カイテ | <u>4</u> | 29 | 11 | 1 | 3 | | 2 | 50 |
| 5 カイテル | | <u>1</u> | | | | | | 1 |
| 6 カイテルノ | | <u>5</u> | 3 | | | | | 8 |
| 7 カイテゴラン | | | | | | | 4 | 4 |
| 8 カイチャッタ | <u>1</u> | | | | | | | 1 |
| 9 カク | | <u>1</u> | 2 | | | | | 3 |
| 10 カクノ | <u>1</u> | 4 | | | | | | 5 |
| 11 カクヨ | | <u>1</u> | | | | | | 1 |
| 12 カクノカナ | | <u>1</u> | | | | | | 1 |
| 13 カケタ | | <u>3</u> | | | | | | 3 |
| 14 カケナイ | | <u>1</u> | | | | | | 1 |
| 15 カケテ | | | <u>1</u> | | | | | 1 |
| 16 カケテチ ョーダイ | | | | | | | <u>2</u> | 2 |
| 計 | 10 | 63 | 17 | 8 | 3 | | 9 | 110 |

注：・数字は頻度
・アンダーラインは初発月

下の13種類の動詞形が認められただけである。

3.2 新動詞形と古動詞形

表 2～5 で示された動詞形には 2つの種類がある。第 1 が、ある月になってはじめて発話された動詞形（これを新動詞形と呼び、各動詞形の、新動詞形としての初発月はアンダーラインで表に示してある）、第 2 が、それ以前の月で発話されたことのある動詞形（これを古動詞形と呼ぶ）である。新動詞形の、各月の使われ率の変化（5 動詞をこみにして）は、図 1 の通りである。実線は使われ数による変化を、破線は使われ種類数による変化を示している。2 歳 1 月からの分析なので、当然ながら、2 歳 1 月の動詞形はすべて新動詞形と解釈される結果、数による新動詞形使われ率も、種類によるそれも 2 歳 1 月では 1.0

表 4 「つくる」での各月の動詞形

| 動詞形 | 年齢 | | | | | | | | | 計 |
|--------------|----|-----------|----------|-----|----------|-----|----------|-----|-----|----|
| | | 2;1 | 2;2 | 2;3 | 2;4 | 2;5 | 2;6 | 2;7 | 2;8 | |
| 1 ツクッタ | | | <u>1</u> | | | 2 | 1 | | | 4 |
| 2 ツクッタノ | | <u>3</u> | | 2 | | | | | | 5 |
| 3 ツクッタノヨ | | <u>1</u> | | | | | | | | 1 |
| 4 ツクル | | | | | <u>3</u> | | | | | 3 |
| 5 ツクルノ | | <u>10</u> | 3 | 2 | | | | | 1 | 16 |
| 6 ツクルノヨ | | | <u>1</u> | | | | | | | 1 |
| 7 ツクッテ | | <u>14</u> | 9 | 5 | 6 | 3 | 2 | 3 | 9 | 51 |
| 8 ツクッテヨ | | | <u>1</u> | | | | | | | 1 |
| 9 ツクッテル | | | | | <u>1</u> | 1 | | | | 2 |
| 10 ツクッテルノ | | <u>1</u> | | | 1 | 1 | | | 4 | 7 |
| 11 ツクッテモラッタノ | | | | | | | <u>2</u> | | | 2 |
| 12 ツクッテイイ | | | <u>1</u> | | | | | | | 1 |
| 13 ツクロー | | | <u>1</u> | | | | | | | 1 |
| 計 | | 29 | 17 | 9 | 11 | 7 | 5 | 3 | 14 | 95 |

注：・数字は頻度

・アンダーラインは初発月

表 5 「かう」と「こぼす」での各月の動詞形

| 動詞形 | 年齢 | | | | | | 計 |
|---------------|----|----------|----------|----------|-----|-----|----|
| | | 2;4 | 2;5 | 2;6 | 2;7 | 2;8 | |
| 1 コボシチャッタ | | <u>3</u> | | 1 | | 2 | 6 |
| 2 コボシテナイ | | | <u>1</u> | | | 1 | 2 |
| 1 カイニイッタノ | | | <u>3</u> | | | | 3 |
| 2 カイニイッタジャナイカ | | | <u>1</u> | | | | 1 |
| 3 カッテキタ | | | | <u>1</u> | | | 1 |
| 4 カッテキタノ | | | | <u>2</u> | 1 | 1 | 4 |
| 計 | | 3 | 5 | 4 | 1 | 4 | 17 |

注：・数字は頻度

・アンダーラインは初発月

である。図1の通り、数・種類による傾向は類似している。すなわち、2歳1月から2歳3月まで新動詞形の使われ率は減少するが、2歳3月から2歳8月

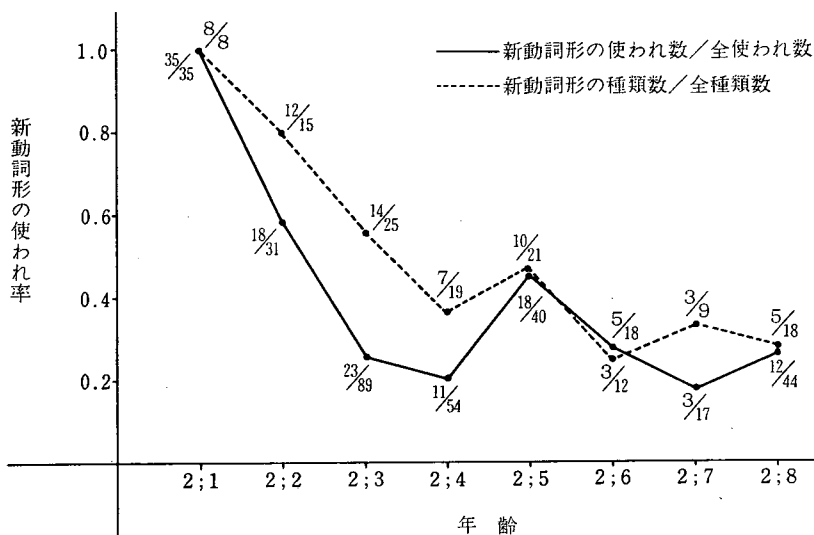


図 1 新・古動詞形の、使われ数と種類数の変化

まではそれほど変化がなかった（種類に関して：①全体， $\chi^2=22.62$ ， $df=7$ ， $P<.005$ ，②2；1～2；3， $\chi^2=17.18$ ， $df=2$ ， $P<.01$ ，③2；3～2；8， $\chi^2=5.64$ ， $df=5$ ，N.S.，数に関して：①全体， $\chi^2=81.79$ ， $df=7$ ， $P<.001$ ，②2；1～2；3， $\chi^2=74.62$ ， $df=2$ ， $P<.01$ ，③2；3～2；8， $\chi^2=8.48$ ， $df=5$ ，N.S.）。

3.3 新動詞形の獲得過程—くつつき仮説の可能性—

新動詞形の量的変化の一面は図1で分るが，それだけでは，新動詞形獲得の実際を理解することはできない。どうしても，新動詞形獲得の質的面をとらえる必要がある。

ところで，新しい語形を獲得する方法には2つの道が考えられる。第1は，単純に新しい動詞形を丸暗記する道で，第2は，古い動詞形にある要素をくつつけることで新しい動詞形を獲得する道である。後者の道を「くつつき仮説」による新動詞獲得と呼び，この過程は次のように一般化できる。

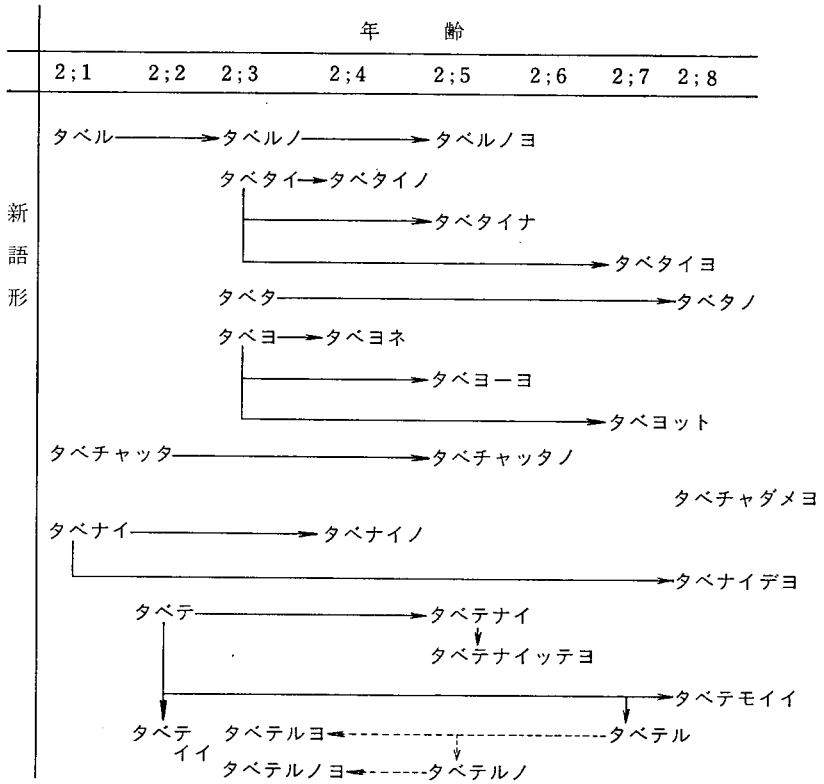


図 2 「たべる」の新語形の年齢変化

新動詞形＝古動詞形＋形態（素）

この仮説を検討する目的から、新動詞形の変化を整理した結果が図2～4である。実線の右矢印は仮説を支持し、実線の下矢印は仮説に対し中立で、破線の左矢印は仮説に矛盾する。例えば、「たべる」では、「タベル」が2歳1月に生じ、2月後の2歳3月に「タベル」に「ノ」がついた「タベルノ」が生じているので、この2つの動詞形（「タベル」と「タベルノ」）は実線の右矢印で結ばれている一方で、「つくる」では、「ツクル」が2歳4月に生じ、3月前

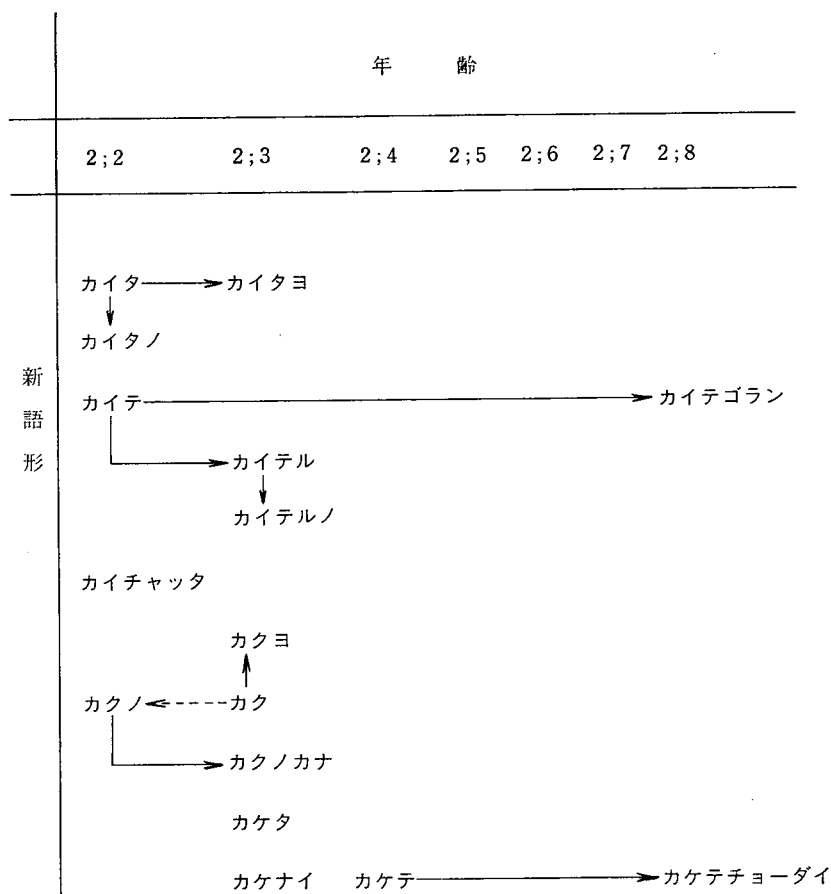


図 3 「かく」の新語形の年齢変化

の2歳1月に「ツクル」に「ノ」がついた「ツクルノ」が生じているので、この2つの動詞形（「ツクル」と「ツクルノ」）は破線の左矢印でむすばれている。仮説を支持する矢印が5動詞全体で25、仮説に矛盾する矢印が5動詞全体で6だったので、くっつき仮説は支持される（ $CR=3.23$, $P<.01$ ）。とはいっても、この仮説では線での結びつきがない動詞形間を関連づけることができない

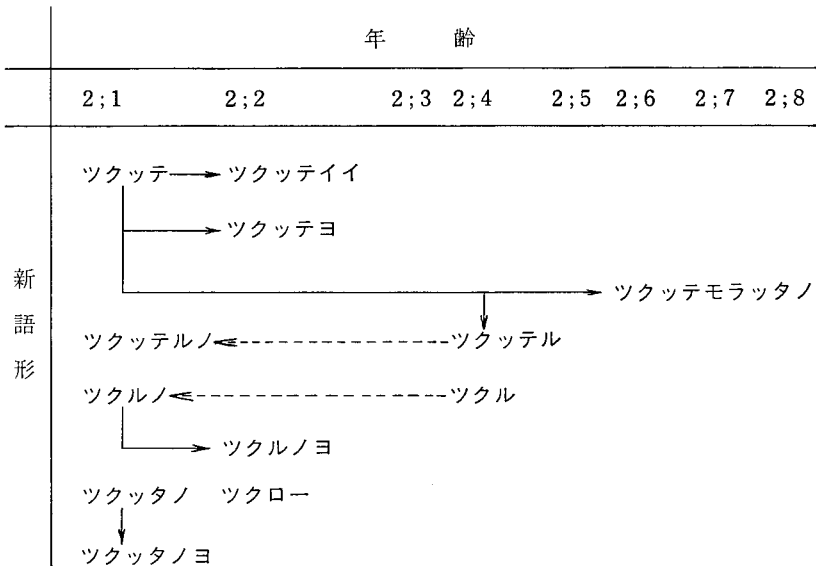


図 4 「つくる」の新語形の年齢変化

い。しかし、だからといって結びつきのない動詞形間に全く関連がないとは考えられないし、最初の段階で全ての動詞形を無関係に丸暗記するとも思えない。今後、この面での解明が必要となろう。

4. 今後の課題

活用ならびに動詞形の細かな研究は、まだ始ったばかりで、資料的にも不十分な段階にある。また、今後解決されなければならない課題ならびに問題も多い。最後にその中のいくつかについてのべて、今後の研究の参考にしたい。

4.1 形態変化と意味の関係

表層上の形態での変化は、常に、意味の変化を伴っている。従って、動詞形の発達を見ていく場合、単純に形態だけに注目する訳にはいかない。たとえば、／タベテ／から／タベテナイ／の変化は、くつつき仮説から見れば、／タ

一日本語児の動詞形の発達について（岩立）

ベル／から／タベルノ／の変化と同じで、ある形態に他の形態が付加したことから生じるが、意味的に見れば、2つの変化には大きな相違がある。「タベルノ」の獲得は子供に単に小さなニュアンスの違いを表現する可能性を与えるだけなのに対し、否定語を含む「タベテナイ」の獲得は、子供に大きな表現可能性を与える。このようなことを考えると、形態的な研究と並行して、細かな意味的分析をする必要があることが分る。

4.2 特定の形態（素）は特定の時期に獲得されるのか？

ある特定の形態（素）は特定の意味をもっているので、特定の時期に般化的に獲得される可能性がある。ところが、実際には、必ずしもそうはなっていない。たとえば、「たべる」の場合、「タベナイ」が2歳1月に生じているのに、「タベテナイ」は2歳2月の「タベテ」を仲介して、2歳5月になってはじめて生じている。さらに、「つくる」の場合には、否定形「ナイ」を含む動詞形は生じていない。このように、必ずしも、特定の形態は、特定の時期に集中して初発する訳ではないが、だからといって、特定の形態の般化的獲得が存在しないとは考えられない。問題は、般化的獲得がいかなる条件でいかなる形で生じるかを調べることであろう。

4.3 おかしな動詞形が生じない理由は何か？

新動詞形の獲得が、単純に古動詞形にある形態要素がくっつけられることで起こるとすれば、多くのおかしな動詞形（「タベルナイヨット」や「タベルナイノ」）が生じる筈である。ところが、実際には、そのようなおかしな動詞形は、「かく」での「カケテ」「カケテチョーダイ」ぐらいで、ほとんど生じていない。このことから考えて、ある要素の付加には、何らかの制限があり、その制限によって、おかしな動詞形の発生は阻止されているらしい。ただ、その制限がいかなる形のものか今の所はつきりしない。

4.4 地域差

今回の結果は東京方言を獲得する子供のもので、この結果が他の方言を獲得

する子供達のもと同じであるという保証はない。特にこのことは、今回のように動詞形を問題にした場合に言える。以前と違い、テレビなどの影響で、現在では、かなり、子供の言葉での地域差がなくなったとしても、各方言の違いは、子供の言語獲得過程に強く影響していると予想される。従って、地域差を十分考慮した上での、綿密な比較研究が必要とされる。そして、このような研究から、思わぬ発見がでてくる可能性があるように思える。

文 献

- グリースン H. A. 1970 竹林・横山訳 記述言語学 大修館
 秦野悦子 1980 言語獲得 児童心理学の進歩 1980年度版 81—116
 小西輝夫 1960 児童精神医学とその近接領域 1 (1) 62—74
 大久保愛 1967 幼児言語の発達 東京堂出版

資料 1 「たべる」での代表形と発話形

| 代表形 | 発話形 |
|------------|---|
| 1 タベル | タベル, タベルー, タベウ, タベユ, タルー |
| 2 タベルノ | タベルノ |
| 3 タベルノヨ | タベルノヨ, タベンノヨ |
| 4 タベタイ | タベタイ |
| 5 タベタイノ | タベタイノ |
| 6 タベタイナ | タベタイナ, タベタイナー |
| 7 タベタイヨ | タベタイヨ |
| 8 タベタ | タベタ, タベター |
| 9 タベタノ | タベタノ |
| 10 タベヨ | タベヨ, タベヨー |
| 11 タベヨネ | タベヨネ, タベヨーネ |
| 12 タベヨーヨ | タベヨーヨ |
| 13 タベヨット | タベヨット |
| 14 タベチャッタ | タベチャッタ, タベチャッター, ターチャッタ, タタタ ー, カタタッター |
| 15 タベチャッタノ | タベチャッタノ |
| 16 タベチャダメヨ | タベチャダメヨ |
| 17 タベナイ | タベナイ, ターナイ |

一日本語児の動詞形の発達について（岩立）

| | | |
|----|----------|-------------------------------|
| 18 | タベナイノ | タベナイノ |
| 19 | タベナイデヨ | タベナイデヨ, タベナイデヨー |
| 20 | タベテ | タベテ, タベテー |
| 21 | タベテイイ | タベテイイ, タベテイーイ?, タベイーイ? |
| 22 | タベテル | タベテル, タベテルー |
| 23 | タベテルノ | タベテルノ, タベテンノ, タベテンノ?, タベテンノー? |
| 24 | タベテルヨ | タベテルヨ, タベテルヨー |
| 25 | タベテルノヨ | タベテルノヨ |
| 26 | タベテモイイ | タベテモイイ, タベテルイーイ? |
| 27 | タベテナイ | タベテナイ |
| 28 | タベテナイッテヨ | タベテナイッテヨ, タベテナイッテヨー |

資料 2 「かく」での代表形と発話形

| 代表形 | 発話形 |
|--------------|------------------------|
| 1 カイタ | カイタ, カイタ?, カイター, カイター? |
| 2 カイタノ | カイタノ, カイタノ?, カータノ |
| 3 カイタヨ | カイタヨ, カイタヨー |
| 4 カイテ | カイテ, カイテー, カイテ! |
| 5 カイテル | カイテル, カイテン |
| 6 カイテルノ | カイテルノ, カイテンノ? |
| 7 カイテゴラン | カイテゴラン, カイテゴラ! |
| 8 カイチャッタ | カイチャッタ, カイチャッター |
| 9 カク | カク, カクー, カクー? |
| 10 カクノ | カクノ |
| 11 カクヨ | カクヨ |
| 12 カクノカナ | カクノカナ, カクノーカナー |
| 13 カケタ | カケタ, カケター |
| 14 カケナイ | カケナイ |
| 15 カケテ | カケテ, カケテー |
| 16 カケテチ ョーダイ | カケテチ ョーダイ |

資料 3 「つくる」での代表形と発話形

| 代表形 | 発話形 |
|---------|---------------------------|
| 1 ツクッタ | ツクッタ, ツクッター, ツクッタ?, オクッター |
| 2 ツクッタノ | ツクッタノ, ツクッタノー, ウクッタノ |

一日本語児の動詞形の発達について（岩立）

| | | |
|----|-----------|--|
| 3 | ツクッタノヨ | ツクッタノヨ, ツクッタノヨー |
| 4 | ツクル | ツクル, アクル |
| 5 | ツクルノ | ツクルノ, ツクルノー, ツクルノ?, ツクンノ, ツクンノ ー, クンノー, オクンノー |
| 6 | ツクルノヨ | ツクルノヨ |
| 7 | ツクッテ | ツクッテ, ツクッテー, ウクッテ, ウクッテー, オクッテ, オクッテー, クッテ, クッテー, アクッテ |
| 8 | ツクッテヨ | ツクッテヨ, ツクッテヨー |
| 9 | ツクッテル | ツクッテル, ウクッテルー |
| 10 | ツクッテルノ | ツクッテルノ, ツクッテルノー, ウクッテンノ, ウクッテン ノー, ウクッテンノ?, オクッテンノ?, オクッテンノー? |
| 11 | ツクッテモラッタノ | ツクッテモラッタノ, ウクッテモラッタノー |
| 12 | ツクッテイイ | ツクッテイイ, ツクッテイーイ? |
| 13 | ツクロー | ツクロー |